

「ヒロチャワンタケ」

かつては、生物は「植物界」と「動物界」の二つでした。私は高校でそう習いました。キノコも「植物界」に分類されていました。しかし、今は「菌界」という大きなくくりができました。その「菌界」に属するキノコは、大別して「担子菌(門)(しのうきん)」と「子囊菌(門)(たんしきん)」があります。胞子の作られ方のちがいで分類されています。ごく大雑把にいうと、担子菌は細胞の外側に、子囊菌は細胞の内側に胞子を作ります。子囊菌のほとんどは、酵母やカビなど、観察には顕微鏡が必要なものばかりです。しかし一部大きな子実体を作る種類もあり、それが子囊菌キノコです。フランス料理に欠かせないモリーユ morille(アミガサタケ)も、子囊菌の一種です。

子囊菌の仲間のキノコは、非常に変わった形のものが多く、その形状に合わせて、名称も面白いものが多いです。例えば、「ジャグマアミガサタケ(蛇熊網傘茸)」「ヘラタケ(篋茸)」「テングノメシガイ(天狗の飯搔)」などです。何となく姿が想像できますよね？

その子囊菌キノコの一つに、ヒロチャワンタケ(緋色茶碗茸)があります。地面から直接、鮮やかなオレンジ色の子実体が生えてきます。キノコにつきものの「柄」もありません。小さいうちは完全な茶碗型で、中に雨水がたまっていることもあります。生長すると、ぐにやぐにやになって、「ヒロカミザラタケ(緋色紙皿茸)」に変身します。



まちがえて踏みつぶさないようにしましょう!

チャワンタケの仲間は、色や形がちがう、さまざまな種類のものが知られています。このユニークな生き様のキノコ、是非さがしてみてください。



「ヒロチャワンタケ」 *Aleuria aurantia*

山荘駐車場の地面から毎年発生します。最初はミカンの皮かと思いましたが。実際に英語では Orange-peel Fungus (ミカンの皮キノコ) と呼ばれています。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)